



箱根ラリック美術館 企画展開催のお知らせ

ラリック × ダンス

開催期間: 2024年3月23日(土)~12月1日(日)

会場: 箱根ラリック美術館 2階企画展示室

このたび箱根ラリック美術館にて、「ラリック×ダンス」と題した企画展を、2024年3月23日~12月1日で開催することが決定しましたのでお知らせいたします。本展、ぜひご紹介くださいますようお願いいたします。

ニジンスキー、ロイ・フラール、イサドラ・ダンカン、そしてラリック。
五輪が開催された100年前のパリに、時代も動かした表現者たちがいた。

パリ五輪の歴史を辿ってみよう——1900年、パリ万国博覧会の附属大会として、パリは初めて五輪会場となる。1924年には二度目の五輪が開かれ、その100周年に当たる2024年に、三度目のパリ五輪が開かれる。そして、新たな競技種目としてブレイクダンスが追加されることとなった。

かつて、パリ五輪が二度にわたり開催された頃、フランスを代表する装飾芸術家ルネ・ラリック(1860-1945)はまさに時代の寵児であった。独創的な作品を次々と生み出したラリックは、1900年のパリ万博にジュエリーを出品し、グランプリを獲得。1925年の現代装飾美術産業美術国際博覧会(通称アール・デコ博覧会)では、ガラス部門の統括責任者を務める。

時を同じくして、ダンスの世界にも改革者たちが現れる。先導したのが、モダン・ダンスの祖とされるロイ・フラールとイサドラ・ダンカン。大きな布をひらめかせ、当時最先端の技術による照明の光をも纏い幻想的に踊るフラールは、1900年のパリ万博にも出演し脚光を浴びる。女性の体を縛り付けていたコルセットを脱ぎ捨て、ギリシア風のチュニックに身を包み裸足で踊るダンカンはフェミニズムの先駆ともいわれ、のちにフランスでは廃れていたバレエを総合芸術として蘇らせ、パリ中の話題をさらうこととなるバレエ・リュスにも影響を与えた。フラール、ダンカン、そしてバレエ・リュス——。彼らは当時既に名声を得ていたロートレックやロダンなどの芸術家たちにさえも、多大なるインスピレーションをもたらした。

ラリックは幼少期より培った観察眼と卓越したデッサン力を駆使して、舞台の上で輝くダンサーたちの姿を独自に解釈し、造形化。躍動感溢れる人体は100年の時を超えてもなお、華麗に舞い踊る。ラリックが表現したダンスの世界をお楽しみください。



▲蓋物「ドガ(別名「踊り子」)」1921年



▲花器「ファランドール」1930年



▲ダイニング用センターピース「火の鳥」1922年



◀ ブレスレット「踊る女性たち」1904-1906年頃



◀ ブローチ「蝶の妖精」
1897-1899年頃



◀ 香水瓶「牧神の接吻」
モリナール社1928年

企画展限定スイーツ

「モダン」1,800円(税込)

※土日祝のみ ※数量限定

モダン・ダンスの祖とされる二人の舞踏家をイメージ。布をひらめかせて踊るロイ・フラワーを表現したチョコレートに、イサドラ・ダンカンが好んだシャンパン香るソースをかけてお召し上がりください。



【ラリック×ダンス】

開催期間:2024年3月23日(土)~12月1日(日)

会場:箱根ラリック美術館 2階企画展示室

箱根ラリック美術館

開館時間:9:00~16:00 (美術館入館は 15:30 まで)

Hakone EMOA Terrace レストラン:9:00~17:00 (お食事 L.O 16:00/ドリンク L.O 16:30)

休館日:毎月第3木曜日定休(但し、8月は無休) ※臨時休館の場合あり、最新情報は、公式ホームページをご覧ください。

入館料:大人 1500円/大・高生・シニア(65歳以上)1300円/中学生・小学生 800円

※レストラン、パティスリー、ミュージアムショップは入場無料

所在地:〒250-0631 神奈川県足柄下郡箱根町仙石原 186 番 1 TEL:0460-84-2255

箱根ラリック美術館公式サイト <https://www.lalique-museum.com/>

【箱根ラリック美術館についてのお問合せ】箱根ラリック美術館 (広報担当:高橋) TEL:0460-84-2255